

# 大阪損保革新懇ニュース

大阪損保革新懇事務局  
 大阪市中央区道修町3-3-10  
 大阪屋道修町ビル3F  
 06-6232-1095

## いまこそ損保代理店の「社会的役割」発揮を — 発足5年「代理店問題プロジェクト」 —

代理店のおかれた現状について、「まず、声を上げよう」「意見交換の場を設定しよう」と論議を始めたのは2008年2月のことです。「代理店プロジェクト」と銘打ったこの代理店有志の集まりは、今年5月で38回を数えました。延べ参加者は703名にのぼります。また「損保産業と代理店の社会的役割を考える」シンポジウムもこの間3回開催し、合計477名が参加しています。発足5年を経過した「代理店問題プロジェクト」の活動と今後を展望します。

### 「代理店問題プロジェクト」とは

発端は、損保各社の「代理店統合・切り捨て」です。「これは、今問題になっている派遣切りと一緒にではないか」「セーフティネットを広げるといふ損保の『社会的役割』に逆行したものではないか」との声が寄せられ、集いがスタートしました。

当初は不定期でしたが、現在は毎月第四木曜日にアイクルの部屋で開催されています。損保革新懇事務局スタッフによる手作り料理とアルコールも継続のエネルギーとなっています。

権利だけを主張するものではありませんし、会社にやみくもにたてつくことが目的でもありません。「代理店も社員も会社もともに伸びよう」という産業全体の健全な発展を望む立場です。

ただ、おかしいことはおかしいと主張する。いまの施策はどうか、損保会社は損保産業の未来にはたして展望を示してくれるのか、などについては率直に、どこにも遠慮しないで発言しようというものです。

### 近畿財務局へ要請

2013年3月の「みどうすじ総行動」において、「代理店問題プロジェクト」でまとめた要請書を近畿財務局に提出しました。

近財への申し入れは、今回で3度目となります。従来から要望してきた内容は次の3点です。

- ① 代理店切り捨て問題
- ② 代理店手数料率の一方的な引き下げなど、損保会社と代理店の不公平な取引の問題
- ③ 消費者ニーズに合致した商品販売の問題

4月15日（金）には再び近畿財務局を訪れ、要請団が提出した文書に対する回答を求めました。まず全体で、銀行、証券、保険など近財のそれぞれの担



近畿財務局への要請行動

当者から要請内容に関する総括回答がありました。

保険部門で言えば、「契約者保護」が従来以上に強調されたのが今回の特徴です。たとえば、「保険法や供給されるべきサービスに見合った、要員・システム・資源の投入を」との要請に対しては、「各社の経営判断である」としながらも、「契約者保護の観点から、必要に応じて対応を行う」という回答がありました。

代理店政策についての回答は、「代理店問題で権限があるのは、代理店の登録、募集行為についてである。損保会社の代理店政策に対する指導については近畿財務局に権限がない」という従来通りのものでしたが、「代理店のみなさんの要請内容はいいに金融庁に伝えている」という一言がありました。

### 「自動車保険商品の劣化」と店舗削減の実態

その後行われた質疑・応答では、以下の通り発言し回答を求めました。

まず、損保各社の効率化路線が「保険商品の劣化」につながっているという問題の指摘です。

(P・2へつづく)

(P・1よりのつづき)

「事故で3カ月入院し、約2年間通院治療したが、保険会社の連絡は電話だけで一度も面談はなかった。これで示談していいのかわからない」という被害者の声を紹介し、これは「自動車保険商品の劣化」だというのが保険商品を販売する代理店としての問題意識であると述べました。

次に、営業店舗数が2000年度5,079店から2011年度3,262店へと大幅削減され、ある中堅損保では大阪～和歌山間に店舗がなくなっていること、自賠責の相談などでは契約者・被害者に不便をかけていることを指摘しました。

この二点について、近畿財務局には、損調職場での一人あたり人身事故担当件数の実態と近畿圏の店舗数の現状を把握することを要請しました。

また、代理店業務の問題で、保険会社から代理店にシフトされる業務が増えており、代理店の社会的役割が従来以上に大きくなっているにもかかわらず、損保会社にその認識がないことを指摘しました。

近財の保険担当者からは、損保各社の実態を調査することについての明確な回答はえられなかったものの、「利用者が満足えられるサービスの提供は必要だ」との見解が示され、「要請内容は必ず金融庁に伝える」との回答が寄せられました。

また、「こうした現場の生の声は非常に参考になる」との感想も出されました。

## 昨今の政治を憂う5首

清く貧しい年金生活者 中川 昇

- ・国民の 生活壊す 安倍のミス  
天に唾する 逆立ち政治
- ・政権は 民の生活 目もくれず  
米の言いなり 財界奉仕
- ・安倍総理 戦争ごっこが 好きな人  
九条変えて 日本を壊す
- ・自民党 原発事故で 国民が  
辛酸しても 知らぬ顔
- ・政党の 名前が変わる くるくると  
渡る議員の 浮き草の宿

川 柳

伊東 ・ としお

悪政を ただす薬は 民の声

見上げれば 津波の高さ 悲しけれ

歓声と ため息まじる 甲子園

(ご案内) 大阪損保革新懇(講演会)  
**“アベノミクス”と日本の未来**  
これでいいのかわ私たちの職場  
講師:関西労協・中田 進さん  
7月2日(火)PM6:30～ アイクルの部屋にて

## セーフティネットを広げる代理店の「社会的役割」発揮を

今回の要請行動の到達をふまえ、「代理店プロジェクト」では、さらにこの運動を前進させる必要があると論議しています。

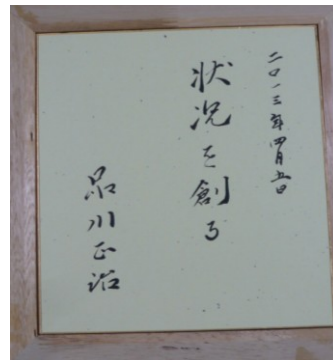
第一は、代理店プロジェクトの考え方、運動を大阪府下、あるいは全国に広げていくにはどうすればいいかということです。

第二は、従来の代理店切りや手数料ポイントの引き下げは一段落したように見えるが、今回の損保ジャパンと日本興亜との合併を契機に、あらたな動きが出ている。こうした現状認識を共有することが必要ではないかということです。

この点では、久しぶりに代理店問題シンポジウムを開催したらどうかという意見が出されています。

効率化による損保各社の「雇用の劣化」→「商品の劣化」問題、NKSJでのあらたな代理店切り捨て問題、MS&ADに見られる一方的な保険会社変更のおしつけなどについて、共同で考える場としよう。そこから、各地での集いに発展させようというものです。

セーフティネットを広げるという損保代理店の「社会的役割」の発揮のために、「代理店プロジェクト」の一層の飛躍が求められます。(松浦 章)



度重なる講師などでお世話になっている品川正治さんから色紙“状況を創る”を頂きました。アイクルの部屋に飾っています。

## 日新職場革新懇に21名

28回目の日新職場革新懇が6月14日に開催されました。「このままでいいのかわ日新火災 語ろう職場 語ろう職場の未来」の垂れ幕のもと、職場の仲間と代理店・OBが参加。入社2年目から70歳代の先輩まで、21名が参加しました。

今回は、ゲストに現在「60歳以降の雇用延長」を求めてたたかっている小畑さんを招き、前回に続いて2回目の近況報告を受けました。参加者からは、「朝ビラに参加したい」の発言もあり、支援グッズの購入など盛り上がりしました。

今回初めての参加者が4名、8年ぶりと3年ぶりに近畿に帰って来た仲間の「お帰りなさい会」も兼ねており、純米酒の差し入れもあり、遅くまで大盛り上がりの会になりました。また、この会で2名の損保革新懇への入会がありました。